

「鍛える2学期+高める2学期」

校長 植田 秀樹

松尾 芭蕉「閑さや 岩にしみ入る 蝉の声」

(しずかさや いわにしみいる せみのこえ)

「なんてしずかなんだらう。石にしみいるように蝉が鳴いている。」
というような意味です。変わらぬ情景が、轟でも・・・。



今夏(6月~8月)は、豪雨による被害を各地にもたらしました。そして、猛暑。環境の急激な変化に一抹の不安を感じます。被害に遭われた方々にお見舞いを申し上げますとともに、1日も早い復旧、復興を願います。

また、悲惨な水難・交通事故等も多く発生しました。命の尊さを強く思います。

さて、学校は、2学期が始まって元気な声が響いています。学校が活気付き、エネルギーにあふれています。2学期は表題のとおり、「鍛える2学期+高める2学期」とします。

子どもたちがどんな成長をしていくのか、とても楽しみです。

「鍛える」とは、練習・修練を繰り返し、技術力や身体、精神をしっかりとしたものにするということです。

「高める」とは、自分を高めることです。学ぶことで、自分の価値をより高いものにするということです。

自分を「鍛え」、自分を「高める」日々(2学期)であってほしいと思います。

そのためには、目標を掲げ、日々努力をする意欲(エネルギー)をもち、楽しんで学習や遊びに取り組むことが大切です。

学校では、学期ごとの目標を子どもたちに考えさせます。学習や生活の目標を個々に立て、いつでも確認できるようにします。

また、学級の目標の振り返りをして、新たに重点化する目標を決めます。より良い集団となるよう、豊かな人権感覚、思いやりの心、規範意識、自己教育力、表現力、基本的生活習慣、危険予知能力と危険回避能力など、目標を意識しながら全員で高めます。毎時間の学習の場も同様です。教科の目標や授業態度など、教師が目標をもち子どもを指導します。子どもたちも目標をもち授業に臨みます。

子ども自身が、「分かる、できる、楽しい」と認識すること、及び、教師や友達の認め励ます言葉や行動を受け止めることなど、子どもの肯定感を高め自信となるようにします。

家庭では、自主自立(自分のことは自分の力で言い、他人に依存しないこと)、自律、協調、協力、思いやりなど、生活の基礎となる知恵や行動をしつけます。

さらには、家庭学習を習慣化することも大切です。特に、高学年では、宿題の他に自学自習する時間を設け、毎日机に向かう環境づくりを進めてほしいです。(中学校への第一歩)

また、テレビの音を消して、家族全員で読書をするなどの工夫もお願いします。

子どもへの愛情が伝わるように、「認め、励まし、抱きしめて」子どもの肯定感を高め、自信となるようにしてほしいと思います。

「鍛える」、「高める」ことの日々の積み重ねによって、人は成長します。学校も家庭も地域も、より良い成長を望むことは同じです。子どもが意欲的に自分を「鍛え」、「高めていく」ことができるよう共に進みましょう。

9月は、秋季大運動会(10月1日)のシーズンです。「鍛える9月、高める9月」です。まだまだ暑さが続きますが、健康や安全(熱中症等)に留意しながら進めます。家庭でも、体調管理に気を付けられ、子どもたちを認め、励ます日々をお願いします。

最後に、秋季大運動会のスローガンを紹介します。

「みんなの力で 優勝にみちびけ! 燃やせ 轟魂!」